

## 第5回丹波市立学校適正規模・適正配置検討委員会 会議録

◇開 会 令和3年 3月16日(火) 午後 7時30分  
 ◇閉 会 令和3年 3月16日(火) 午後 8時30分  
 ◇会 場 氷上住民センター 大会議室

・委員長 川上 泰彦 ・副委員長 足立 仁  
 ・委員 上田 公一 松井 久信 細見 滋樹 野垣 克巳  
 坂根 眞一 津田 恵美 鷺野 光一 小谷 伸弥  
 志村 直敏 西倉 寛登 内田 順子 吉川 景敏  
 荒木 真也 足立 晶子 荻野 雅世

[事務局]

・教育長 岸田 隆博  
 ・教育部長 藤原 泰志  
 ・教育部次長兼学校教育課長 足立 和宏  
 ・学校教育課副課長 谷川 知美  
 ・学事課長 井尻 宏幸  
 ・教育総務課長 足立 勲  
 ・教育総務課学校統合準備係長 船越 正一  
 ・教育総務課主事 畑中 直之  
 ・教育総務課指導主事 小田 敏治

### 次第

(足立教育総務課長)

### 1 開会

本日は夜分お疲れのところ御出席いただき、ありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第5回丹波市立学校適正規模・適正配置検討委員会を開会いたします。

会議を始める前に、委員の皆様には配付資料の確認と注意事項がございます。まず、本日の資料は、事前に郵送させていただいております。お忘れの方はございませんでしょうか。

次に、この委員会についての注意事項です。本日の委員会は、公開して開催しているため、傍聴席を設けております。

次に、委員会の会議録を作成いたしますので、録音させていただきます。会議録は、教育委員会ホームページに後日掲載いたします。発言の際には、マイクを持ってまいりますので、マイクを通して名前を発せられてから御発言いただきますようよろしくお願いいたします。

次に、委員会からの情報発信、記録のために写真撮影を行う場合があります。また、本日は報道機関の方も来られておりますので、写真撮影される場合がありますので、御了承ください。

次に、傍聴席の皆様にはお願いです。本日の委員会の資料を傍聴者用として準備いたしておりますので、御覧いただきながら傍聴いただければと思います。

### 次第

(足立教育総務課長)

### 2 委員長あいさつ

それでは、次第に沿って会議を始めさせていただきます。

2番の挨拶です。開会に当たりまして、丹波市立学校適正規模・適正配置検討委員会、川上泰彦委員長から御挨拶を頂きます。

(川上委員長)

皆さん、こんばんは。学校適正規模・適正配置検討委員会が第5回となりました。緊急事態宣言を受けての延期を挟んでということになりましたが、

年度内にこうやって会議を持てることができたというのは非常に良かったなというふうに思います。

とはいえ、こうやって委員の皆様方を見回してみますと、結局、マスク姿しか知らないということで1年間、こうして会議が終わろうとしているというのは、今年の会議というのを象徴しているなというような感じがしています。

今回は、答申に向けた協議が大きな最後の部分かと思います。答申案を御覧になってもお分かりになるように、次の10年の責任を持つての答申となります。良いものが答申できるように委員の皆様方におかれまして、十分な御検討を頂ければと思っております。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

(足立教育総務課長)

ありがとうございました。先ほど委員長からもありましたように、本来であれば、この回、第5回の検討委員会を2月17日に開催する予定にしておりましたが、緊急事態宣言の発令がございましたので、本日まで延期をさせていただいております。御了承賜りますようよろしくお願いいたします。

ここからは、川上委員長の進行で進めていただきますので、よろしくお願いいたします。

## 次第

### 3 報告事項

#### (1) 第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針(案)に関するパブリックコメントについて

(川上委員長)

では、改めましてよろしくお願いいたします。お手元の次第、御覧いただきますと、今日は報告事項が1点、協議事項1点というふうになっております。報告事項については、第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針の案に関するパブリックコメント、今年の年明けに行いました。これについてのまとめ、こういうことで御報告を頂くようになっております。

では、事務局からよろしくお願いいたします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係長の船越です。私からは、1月5日から2月5日にかけて実施しましたパブリックコメントについて御報告をさせていただきます。座って失礼します。

パブリックコメントにつきましては、市役所本庁舎及び各支所、住民センター、ライフピアいちじま、市民プラザ窓口と丹波市のホームページ上で募集をいたしました。結果としましては、別紙、「第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針(案)に関するパブリックコメント」にあるとおり、10件の御意見がありました。

パブリックコメントを踏まえ、追加や修正したものについては、この後の協議事項で説明いたしますので、ここでは追加や修正をしなかったものを説明いたします。別紙のパブリックコメントを御覧ください。

まず1点目、No.1ですが、「学級の児童数が少なくなったら、それを利用して充実した教育を行い、丹波市の魅力の一つにすればよいと思います。児童数が少ないほうが徹底して学力を身につけさせることができます。しかし、プラスαを望むならば、教員の力量が問われます」という御意見を頂いておりますが、これにつきましては、方針案で該当するページはございません。

市の考え方についてですが、「一定の児童生徒数や学級数があることにより子どもたちが多様な考え方に触れ合い、認め合い、学び合い、切磋琢磨することを通じて、新たな人間関係を構築する力を育成したいと考えます。コミュニティ・スクールの活用などにより、地域とともにある魅力ある学校を

めざし、個別最適化された学習を取り入れながら、一人ひとりが活躍できる学校づくりに努めます。」としております。

次に2点目、No.3ですが、こちらは、「過去推移に合わせて、将来の予測も記載するほうが、これからの方針として分かりやすくなると思います。正確ではないものの、人口ビジョン等でも出されているとおり、人口予測などをもとに精度の高い予測推移が出せると思います。」という御意見ですが、関連ではNo.6の「令和12年度までの児童数の推移を出生者ベースで記載するほうがよいのではないか。小中学校の規模に関する判断が見えない。」という御意見もございました。該当ページは、主に2ページ、4ページ、6ページになります。

こちらについては、第2期の丹波市の人口ビジョンでは、国勢調査や内閣府が提供する国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を基に市全体人口しか推計していないため地域別集計や年齢ごとの推計は非常に困難であるということから、修正はしておりません。ただし、14ページから16ページにかけて、これまでの小中学校の児童生徒数の推移であるとか、現在のゼロ歳児からの推移を資料として掲載をしております。

次に3点目、No.4ですけれども、「それぞれの項目に「方針」と結論があるものの、個別で共存しない状況になった場合どうなるか分からない。それぞれの方針で強弱関係があるのであれば示したほうが誤認が減ると思います」という御意見がございました。今回の方針(案)は、規模、配置、どちらを重視するといった方針とはしていないことから、「規模を重視するあまり無理な配置を強いられ通学上困難を招いたり、配置を重視するあまり児童生徒の教育効果を著しく低下させることなどが考えられ、規模と配置は深い関係性があることから、今回の方針では特に強弱は持たせていません」としてしております。

次に4点目、「完全複式規模となる場合は、地域合意の如何を問わず、速やかに統合協議に入る、これは方針上ナンセンスではないか。なぜ少子化がそこまで進んだか、予測されるなら打つべき手だてがなかったか等、それこそIターン誘致の力強い施策が必要だと考えます。小学校の廃校による地域衰退の加速化は青垣では経験済みです。コロナ禍で少人数学級の重要性で同基準が見直されている折、手厚い教育実践の有効さが証明されたように思います」という御意見がございました。

これに対し、今回の方針では、小学校は複式学級規模となる場合、または複式学級規模となることが見込まれる場合に地域合意の下、その学校のある地域、旧町単位ですけれども、統合協議を行う。ただし、完全複式規模3学級となる場合は、地域合意の如何を問わず、速やかに統合協議に入ることとしております。よって、完全複式3学級となる場合は、地域合意の如何を問わず、速やかに統合協議を行います。統合するか否かは協議による地域合意の下に行っていくことになると考えていますとしております。

最後に、「中学校は統合しないという方針か。状況が悪くなれば如何を問わず速やかに統合か」という御意見を頂いておりますが、こちらについては5の2、適正配置、学校の構成、6ページになりますが、こちらにも示しておりますとおり、地域内(旧町域)に小中学校各1校以上を配置することとしており、今回の方針期間、この10年間は中学校の統合協議は行わないということとしております。

以上でパブリックコメントとさせていただきます。

(川上委員長)

ありがとうございました。今の報告について、御意見、それから、確認したい点等々ございましたら、御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

## 4 協議事項

### (1) 第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針（答申案）について

(川上委員長)

では、報告事項については以上としまして、次に協議事項に入ってまいりたいと思います。

協議事項につきましては、第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針（答申案）についてとなっております。

先ほども事務局から説明がありましたとおり、修正のあった部分についての説明から入っていく感じになるかと思っておりますので、引き続き、事務局のほうから説明をよろしく願いいたします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係長の船越です。それでは、第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針（答申案）について説明をいたします。お手元の資料、答申案を御覧ください。

お手元の資料、答申案については、パブリックコメントでの市民の皆様から頂いた意見を反映させたものとしておりまして、追加、修正箇所は赤字で表記いたしております。ですので、追加、修正箇所のみ説明をさせていただきます。7ページを御覧ください。

パブリックコメントで頂いた御意見で、「考えられます」との表記は他人事のように思われなかつたの御意見を頂いており、その箇所の修正を7ページの(3)「一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばすことができると考えられます」、こちらを「一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばすことができると考えます」に、同じくその下の段についても、「確保することが必要であると考えられます」を「確保することが必要です」に改めております。

同じく8ページ、9ページにつきましても、「国から示されています」、「高まっていきます」、「これからの教育に必要です」、「向上させていきます」、「的確な学習評価を行うための指導体制の充実を図る必要があります」など、肯定的・主体的な表現に追加、修正をしております。

また、9ページの(3)「地域社会との連携」では、「地域学校協働活動推進員を委嘱し」となっておりますが、令和3年度からの方針であることから、「地域学校協働活動推進員委嘱を行っております」に修正をしております。

最後に、10ページの「今後の課題」ですけれども、パブリックコメントでは、学校の在り方そのものが問われており、その速度が速まっている。校舎へ通うことを前提としているが、そのこと自体が変わっていく可能性が高い。市の教育振興基本計画と併せて、積極的に検討し、準備を始めることについて研究・検討することを記載すべきとの御意見を頂いております。この御意見で、ここでは、「GIGAスクール構想により、これまで進んでこなかった学校のICT環境が整備されることにより、情報化が大きく進んでいくことが予想されます。今後、情報化、国際化の流れにおいて、学校のあり方そのものが大きく変化していくことも考えられることから、指導体制や指導方法を工夫し、小規模校のデメリットとして考えられる多様な意見に触れる機会の不足を補い、児童生徒の学習意欲の向上に繋がる取組を教育振興基本計画と合わせて今後検討していくことが求められます」と追加修正しております。

以上、簡単ですが、答申案の説明と修正箇所の説明とさせていただきます。

(川上委員長)

ありがとうございました。それでは、協議事項となっておりますお手元の答申案について、今の修正部分を含めて、御意見等ございましたら、挙手により発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、こちら、今、お手元にありますが、見ていただくと「第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針について（答申案）」となっておりますが、この「答申案」の「案」をとらせていただいて、この中身を「答申」として確定させたいと考えますが、御異議ございませんでしょうか。挙手とかをとったほうがいいですか。

(足立教育総務課長)

特に問題はありません。委員に確認いただければと思います。

(川上委員長)

御異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

(川上委員長)

では、お手元の答申案、「案」をとらせていただいて、これを「第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針（答申）」として教育委員会のほうにお戻ししたいと思います。御協力ありがとうございました。

では、進行を事務局に戻したいと思います。よろしくお願ひします。

## 5 答申

(足立教育総務課長)

ありがとうございました。本日まで5回に及ぶ協議によりまして、先ほど委員長さんから頂きましたように、答申までしていただきました。ありがとうございました。

先ほど確定いただきました答申をもって、丹波市立学校適正規模・適正配置検討委員会から丹波市教育委員会へ答申を頂くこととなります。この場で川上委員長から岸田教育長に答申書を提出いただきます。

(川上委員長)

丹波市立学校適正規模・適正配置についての答申をお返しいたします。よろしくお願ひします。

(岸田教育長)

お世話になりました。

(足立教育総務課長)

川上委員長、ありがとうございました。

それでは、資料のところ、答申まで終わりました。

本日の会の御案内にも書かせていただいておりました。今日で協議のほうは終了となります。5回に及ぶ検討を頂いた中で、各委員様、それぞれからこの委員会に参加しての御感想とか御意見を頂ければと考えております。上田委員さんから順にお世話になればと思います。

(委員)

1月5日に出された資料で、2月17日にこの会を行いますよという案内文の中で、委員の方々には、内容等を御確認いただき、御意見がある場合は、ここにコメント提出方式より事務局へ提出くださいますようお願いいたしますというような文章が書かれておまして、結果的には誰もなかったと思うんですけども、コロナとかいうようなことがあって、なかなか会議が持てないとか、そういうこともあったかもしれないですけども、こういうことを書かなくてもいいように、今後は、こういうことを考えなくてもいいように、もうちょっと時間をとったほうがよかったかなというような気がしました。以上です。

(委員)

失礼いたします。途中から参加させていただきましたので、どうこう言うことはないんですけども、一応、答申についてはこれでいいと思うんですけど、この答申の中で、気になっているのが、今現在、子どもたちがタブレッ

トを持っていると思うんですけども、その中で、この間、NHKのアサイチの中で、近視について話が出ておりました。それは東京都のある区の状況を調査した結果が出ておったんですけども、小学校1年生で約27%の子どもたちが近視になっていると。6年生になれば70%以上の子どもたちが近視になっているというようなことがこの前、報道されておりました、話の中で。

やはりそういった中で、今、各学校でも養護の先生等が毎日検査されたりして、していていると思うんですけども、こういうタブレットを使うことによって、近視になる可能性も、ある面では出てくる。その辺の対策ですね。今後、使うことは大変いいことなんです。だけど、長時間使うことによって、やはりその率が高くなるというふうなことも出ておりましたので、その辺のところはまた教育委員会として、各学校にも注意してもらえないかなと。30センチの場合と15センチの場合と大きく違うということが言われておりました。ちょっとそれが気になりましたので、今後、もう子どもたちは実際使っているわけですけども、また各学校のほうへ、それらのことを提供していただければ大変ありがたいなと思います。以上です。

(委員)

私は小さな地域の自治会の代表でございます、このデータや資料を細かく見たことがございませんでしたが、この推計、推移について、勉強もさせていただきました。今、現実を振り返ってみますと、もっと状態が良くなるんじゃないかと思っております。これを生かしながら、また、各丹波市内の状況も、前回含めて、確認させていただきましたので、今後、この委員会の委員さんの意見等を今後の活動に生かしていきたいなと、このように思っております。どうもありがとうございました。

(委員)

すみません、自治会長会からこの適正規模の委員会に指名を受けて出ているわけでございます。特にこれ、ちょうど今、先ほど他の委員さんからも意見がありましたが、上久下小学校というのは、ちょうどこの適正規模の中では一番瀬戸際の山南町の地域でありまして、非常に私自身も、ここに出ることによって関心を、特に深く持ちましたし、同時に、やはりこういう会議においてでも、そういう人口減の中で、いかに学校教育に関わっていくかということ強く感じました。同時に、今後もこの経験を生かして、小さな小学校でありますけれども、学校運営協議会もできてまいりますので、そういう中でひとつ、頑張っていきたいなというふうにも思っております。本当にこの委員会に参加させていただいて、ありがとうございました。

(委員)

失礼いたします。こういった会議は学校の適正規模・適正配置の方針というところの委員と、私自身、市島地域の、現在、小学校統合検討委員会の委員も兼ねてこの会議に出席させていただいています。

その中で、答申の案にもありますように、実際、学校統合というところについてのこの新しい答申案では、方針として複式学級規模という言葉がキーになる言葉となっておって、従来のところは、児童の数のところでステージ1から4で学校統合の協議を始めますよということになっていたんですけども、今回の答申案で、複式学級規模となる場合、見込まれる場合について、地域の合意の下、統合協議を行うということになりましたことに対しては、分かりやすくなったのかなと思っております。

もう1点、私も市島地域小学校の統合検討委員会ということで、11月18日の第4回の検討委員会で、統合の方向性を決定しております。今年度につきましては、準備委員会が発足する予定になっておりますけども、その中で、丹波市の小学校区児童生徒数の推移を見ましても、私たちの市島地域のところで、既に複式学級を有する小学校が1校あります。そして、他地域のとこ

ろでゼロ歳児から5歳児を見れば、当然、五、六年先にはちょっと少人数の学級も出てくるような数値になっていますので、そのときにちょっと私、感じたことだけ1点、ちょっと皆さんにお話しさせていただきたいことがあるんですけども、学校統合というのは、いろんな意見が出てくると思うんです。それぞれいろいろな立場の方がおっしゃっている部分もあると思いますけども、あくまでも基本的な考え方ということで、マニュアル等にも載っていますように、学校統合の適否を検討する上では、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者、将来の受益者、ゼロ歳児から5歳児ぐらいの方の就学前の子どもの保護者の声を重視していくことがまず大前提でうたわれているんですけども、私も全くこのとおりだと思うんです。

その学校統合等の話の中ですが、私個人的には、現在、複式学級を有する小学校の保護者の方、地域の代表者等にお聞きしますと、複式学級を何とか解消していただきたいというような思いを持っておられる方がほとんどだと認識しております。ですから、統合というところを検討する上については、そういうところの考え方等の思いを十分知って、学校統合というところの話合いを進めていっているんですけども、今後ともそういう認識で取り組む必要があるのではないかとということで、今まで私が会議に出席して、そういう思いを持ちました。以上です。

(委員)

この会議に参加して、自分の住んでいる校区でここにある小学校、中学校に通学することが当たり前だと思っていたものが、その時代によって当たり前でなくなってきたことに寂しく感じました。しかし、適正な規模で子どもにとって良い学びの場が実現し、それによってプラスになることがあればうれしいです。それぞれにメリット、デメリットがあるかもしれませんが、いろんなどころの声を重視して、理解し、協力を得ることが望ましいとこの会議で思いました。たくさんの意見を聞くことができ、自分なりにいろいろ考えることができました。ありがとうございました。

(委員)

失礼します。私も1年間、参加させていただきまして、丹波市のこれからの関わる答申に少しでも関わったというのが有意義な経験だったかなというふうに思いますし、いろいろ難しいこと、それぞれこれからあるかと思えますけれども、実情に即してなじむ柔軟な対応がこれからもなされるように期待をします。以上です。ありがとうございました。

(委員)

私もこの会議に参加させていただきまして、これからの学校の在り方というのを勉強させていただきました。また、思いましたのが、やっぱり学校をより良くするという部分で意見が出たと思いますが、これからの子どもをどうやって増やしていくか、人をどうやって呼ぶかということも非常に大事なことのようには思います。それは、子どもの親とか教育関係だけではなくて、企業など全体で取り組んでいくことがこれから大事だと思います。以上です。

(委員)

私もこの会議に参加させていただきまして、改めてこれから先、児童数の減少、ほんまに中学校、小学校含めて、統合の必要性を改めて感じさせていただきました。また、これから先、やはり学校の統合ということに、ある一つ、丹波市の何か魅力ある学校とか、そういう学校づくりをこれから先、していただけたら、少しでも丹波市の魅力づくり、そういう面でも、学校発信でも良いと思うんです。そういうことでもまたよろしくお願ひしたいと思ひます。1年間ありがとうございました。

(委員)

丹波市の実情に合った答申になったと感じております。今後、子どもたちにとって何が一番大事かというところを考えて議論されていくと思います。

実は、明日は中学校の卒業式、23日が小学校の卒業式です。この巣立っていく子どもたちを見ていますと、本当に多くの人の中で育ってきた大きさが分かってきます。どれほどのトラブル、それから支え、大人たちとの出会い、子ども同士の関わり、この中で培ってきたものが本当に多くて、3月になるとそれを全て発揮してくれるので、毎日、思いもかけない出来事、すばらしいことが起こっております。この集団の中で育つという、この辺を学校現場からもっと皆さんにアピールして行って、本当にこういう時代になっても、人との関わりがいかに大事かというところを、またお知らせしていきたいなと思っております。本当にありがとうございました。

(委員)

失礼します。この1年間、本当にありがとうございました。今日、最後にして、このパブリックコメントのナンバー1のところの意見を、最後、私自身が確認して感じたことを感想とさせていただきます。

全くこのとおりだなということを感じました。学級の児童数が少なくなったら、それを利用して、充実した教育を行い、丹波市の魅力の一つにすればよいと思います。本当にそうで、生徒数が少なくても魅力づくりというのは何でもできるのかなと思います。少なくなったらなつたで、その方法はたくさんあるんだろうなということを感じています。

ただ、3行目に「児童数が少ないほうが徹底して学力を身につけさせることができます。」とありますが、ここについては、そういうふうにしてつけさせることができる学力もあれば、今、新しい指導要領に変わってきて、私たちがねらっている学力の一つに、最終目標は、予測困難な時代を生き抜く力をつけさせたいというところなんです、実際、学校で何ができるのか。人とつながる力を伸ばしたい。主体的に学び続けようとする力を伸ばしたい。子どもたちが主体的に学べば、本当に学力が伸びます。これは、生徒数の数じゃなくて、その仕掛けをどう作っていくのかというところだと私は考えます。

そんな意味で、少なくとも多くても、子どもにとって充実した教育を行うことを目的に、学校の魅力づくりや地域とのつながり、こういったところを改めて大事にしていかなければならないなということを感じました。この三つをどう伸ばしていくかということについて、今後、教職員と一丸となって取り組んでいきたいと改めて思いました。以上です。

(委員)

失礼します。教職員代表として来させていただきました。この答申を検討するに当たって、たくさんの数字というものが出てきたと思います。学級数、それから、児童生徒数、通学距離とか、いろいろな数字があったと思うんですが、大事なのはその中身というか、子どもたちにどんな力をつけていくのか、どのような教育を学校で行っていくのかということが、今日の答申の中でもたくさん出ていたと思います。それは、多様な考えの下であるとか、人とつながって支え合うとか、そのようなことができるように思っております。我々現場の職員、子どもを預かる立場として、考えていかなければならないのは、そういうところを大事にしていくこと、人数の少ない、多いではなくて、そういうところを大事にしていきたいなというふうに考えています。

丹波市の教育方針にもあるように、ふるさとを愛するであるとか、地域に誇りを持つということもしっかり子どもたちに伝えていく、子どもたちが感じられるような教育をしていくことで、この先、10年、20年先に、さらにその子どもたちが大人になったときに、丹波市はいいなと、丹波市でまた子どもを育てていきたいというふうにつなぐことで、またこの学校の規模ということが考えていけるようになるのではないかなというふうに思います。我々にできることは、それで地域の良さ、地域に住む人々の温かさを伝えていくことかなと思って、また明日から教育に努めていきたいというふうに考

えております。以上です。

(委員)

失礼します。この会議に出席させていただき、初めて小学校の生徒数の推移の青垣地域の0歳児が18人であるという事実を目の当たりにし、本当にショックでした。特に、最近感じているのは、これからの世の中がどうい  
う変化を遂げていくのか、この地域だけでなく、日本全ての地域が少子高齢化  
を迎え、後10年先の世の中がどのような世の中になるのかということです。

しかし、やはりその中で、コロナの影響もあり、本当に自分にとって何が大切  
なのか、何を大切にしていきたいのか、一人一人がそういったことを見直  
す機会になったのではないかと思います。これからは、地域に帰って、丹波  
市、青垣町に帰って子育てしたいと思えるような地域づくりを一人一人が考  
えていくことが出来ればよいと思います。

そして、答申にもあったように、子ども達をどのように育てていくのか、未  
来に繋げる子ども達をどういふうに育成していくのか、どのような地域に  
していくのかということが大切になってくると思います。学校統合をはじめ、  
色々な課題がありますが、その中でも、やはり子ども一人一人を大切に、豊  
かな心の和が持てるような子どもを育成していくことが大切だと思っていま  
す。いろいろ勉強させていただき、ありがとうございました。

(委員)

10年前に作られたこの適正配置・適正規模の方針ですけれども、今回、  
10年前はまだ国の基準ということがすごく重視されていたようすけれど  
も、今回は丹波市の現状に合わせて、丹波市基準というような感じかなと思  
っていたんですけれども、そういうことができたことが良かったかなと思  
います。

自分たちの町のことなので、自分たちの考えで行くということ、自分たち  
で考えていくということが大事ななと思っています。でも、今、複式学級で  
あるところも、本当にどんな教育が大切かなということを教育委員会もしっ  
かり考えていただいている、加配というか、そういうためのマンパワーも入  
れていただいているという現状も知ることができました。それが今年度どう  
なるかは分からないとは言われていたけども、一応、ちゃんと手当てが  
されているというので、そういうふうにするので、本当にこんな適正規模  
とか適正配置が本当に必要なかなという気もしております。

そのためには、いろんな財政面も必要なかなとは思ってますけれども、  
これから丹波市を担う、国を担う子どもできるかもしれません。そういう子  
どもたちが育つためには、そういうことも惜しまない町であってもよいかなと  
思っております。やっぱり子どもの数が、これ、人口減少減少とって言わ  
れていますが、やっぱり丹波市は人口を増やしていこうやないかという、  
みんな、教育分野だけが考えて、こんな少なくなるから、今、どうい  
うことをしましょうと考えているけど、やっぱり丹波市、私らもみんな一緒にな  
って、住み良い、安心して子育てできる町にしていけないと駄目かなと思  
いました。

(足立教育総務課長)

すみません、次に、副委員長様、お願いします。

(副委員長)

ありがとうございました。私は、この委員会に参加させていただいて、常々、  
こういった人が意見を交わすことによって、日本の教育の水準が高さをず  
っと保ってきたということが非常にやっぱり誇りとするところではないかな  
と思うんです。教育は、やっぱり一定の規模と、それから質と、そして水準  
というものはやっぱり維持していかなければならないという大きな使命が  
あるのでないかなと思います。

余談になりますけれども、明治元年から、1868年から今日まで157年

間続いておるわけですけども、戦後、1945年、終戦までが77年なんです。それから、戦後から今日までが76年。半分なんです。その間を考えてみますと、日本のある学校制度ができてから、大きなやっぱり日本の近代史を見ていく中では、人々の学校教育に対する姿勢がいろんなところで変わってきておると。私は日本の教育のすばらしいところで、確かに答申というちっぽけなものかも知れませんが、こういったものがやっぱり一つ一つ、質を高めていく大きな、やっぱり力になっていくのではないかなというように、この会全体を通して勉強をさせていただきました。いろいろ皆さんから御意見を賜ったこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

(川上委員長)

委員の皆様方、委員会、議論の進行等、御協力を頂きまして、まずはありがとうございました。適正規模とか適正配置というのは、今まで委員さんの中の返答の中にも出てきたかと思うんですけども、教育問題だけではないんですね。まちづくりの問題でもある。教育の部分とまちづくりの部分の恐らく接するところにあるのが適正規模とか適正配置の問題になるんだろうなというふうに思っています。

何が言いたいかという、これは答申ですから、この後、常に運用していくこととなります。今後10年の運用の中で、よりたくさんの方が学校の在り方とか子どもの育ちとか学びとか、あとは、学校のある自分たちの地域の在り方などについて強い関心を持っていただくことというのが、この答申をいいものにしていく上で非常に大事なかなというふうに思っております。

10年先どうなっているか分からないわけですが、まちづくりと教育の接点ということで、皆さんが、丹波市の皆さんが子どもの学び・育ち、まちづくりと両方に関心を持っていただくようなことが、10年ちゃんと続くというふうにできるといいなというふうに思いますし、もしそうなると、次の適正規模・適正配置というのは、こんなに形をはっきりしたもので作らなくてもできるようになるのではないかなとか、各学校の中でとか、地域の皆さんと学校の間でこの先の教育の在り方みたいなものを、10年ちゃんと積み重ねていくということができると、もっと自然な形であったりとか、読みやすい形でということができるとはのではないかなということをお空想してみたりもします。

こういう節目になる大事な場面に関わらせていただいて、本当に非常にありがたいなというふうに思いますとともに、こういう関わりを持たせていただいておりますので、この先についてももしっかり関心を持って関わっていただけたらなというふうに思っております。どうもありがとうございました。

(足立教育総務課長)

皆さん、ありがとうございました。

## 6 その他

### (1) 教育長あいさつ

(足立教育総務課長)

それでは、次第は6番のその他というところに入らせていただきます。本日、答申を頂くまでの協議、御議論等に対しまして、岸田教育長から御礼の言葉を申し上げます。

(岸田教育長)

失礼します。ただいま川上委員長から答申を受け取り、また、委員の皆様から貴重な御意見をお伺いすることができました。本当にありがとうございました。一言お礼を申し上げます。

第1回のこの検討委員会におきまして、今後10年間の望ましい学校の規

模、あるいは、教育環境等につきまして、諮問もさせていただいたところがございます。委員の皆様には、5回の検討委員会の中で、市内の児童生徒数の推移、あるいは、遠距離通学の現状、あるいは、ICTを活用した新たな学び、また、小規模校との教育環境の維持等々、様々な視点で御議論を頂きました。おかげをもちまして、このたび、丹波市の、先ほども意見が出ておりましたが、実情に即した方針を取りまとめていただきましたこと、本当に心から感謝を申し上げます。今後、本日頂きました答申を基に、子どもたちのより良い教育環境の整備に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

また、この議論の中でもありましたけども、この答申で示されました適正規模を下回る小学校が出てくることが予想されます。学校統合や小中一貫校等、現状を変えることについては、不安を抱かれる方も数多くいらっしゃいます。そういった協議に当たりましては、決して結論を急ぐのではなく、保護者や地域の方、あるいは学校関係者の皆さんとの協議を深め、できる限りの合意形成を図りながら、慎重に進めてまいりたいと考えております。

また、丹波市の子どもたちの教育環境を、本当に、どんな子どもを育みたいのかといったビジョンを共有しながら、子どもを主語にした協議を通して、最善策を見つけ、先ほども出ましたけども、魅力ある学校づくりに邁進してまいりたいと考えております。この間、教育方針を議会で述べさせていただく機会があったわけですが、今、川上委員長が、まちづくりと教育の接点というお話がありましたけども、私は、地域は海、学校はそこに浮かぶ船だと思っております。つまり、豊かな地域には、豊かな学校、魅力のある学校ができると信じております。今後、子どもたちが、先ほどもありましたけれども、丹波市をこよなく愛し、どんな場所に行ってもふるさとを愛してくれる子どもたちを育むために頑張りたいと思っております。委員の皆様には、本当に長きにわたりお世話になりました。改めて心から感謝を申し上げます。言い尽くせませんが、一言のお礼に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。

## (2) 今後のスケジュール

(足立教育総務課長)

それでは、続きまして、次第の(2)今後のスケジュールを示させていただきます。今後につきましては、本日頂きました答申を教育委員会の方針として3月25日の定例教育委員会で提案をさせていただいて、教育委員会での承認を得て、正式な答申とさせていただきます。その後、4月に市議会のほうに報告をさせていただくということ、また、市のホームページ等でもこの方針についてはお知らせしていく予定にしております。今後のスケジュールにつきましては、以上のようなこととなっております。

## 7 閉会

(足立教育総務課長)

最後に閉会ということですが、先ほど感想も述べていただきましたが、副委員長に閉会の御挨拶をよろしく申し上げます。

(副委員長)

川上先生を初め、委員の皆さん、また、教育委員会の皆さん、この会につきまして、いろいろな多方面から御意見を頂いて、反映させることができ、まとめ上げることができました。丹波市の教育のさらなる充実を目指して、知恵と勇気のある子どもが育つことを私たちは願っております。委員の皆様、ありがとうございました。閉会します。